

# 最新MRI来月稼働

## 製鉄記念病院 管内で初導入

製鉄記念室蘭病院は最新型の磁気共鳴画像装置（MRI）の「3テスラMRI」1台を導入し、4月1日から稼働させる。従来機より解像度が高く、小さな脳梗塞の発見など、より正確な診断・治療に役立つという。同病院によると3テスラMRIの導入は胆振管内で初めて。

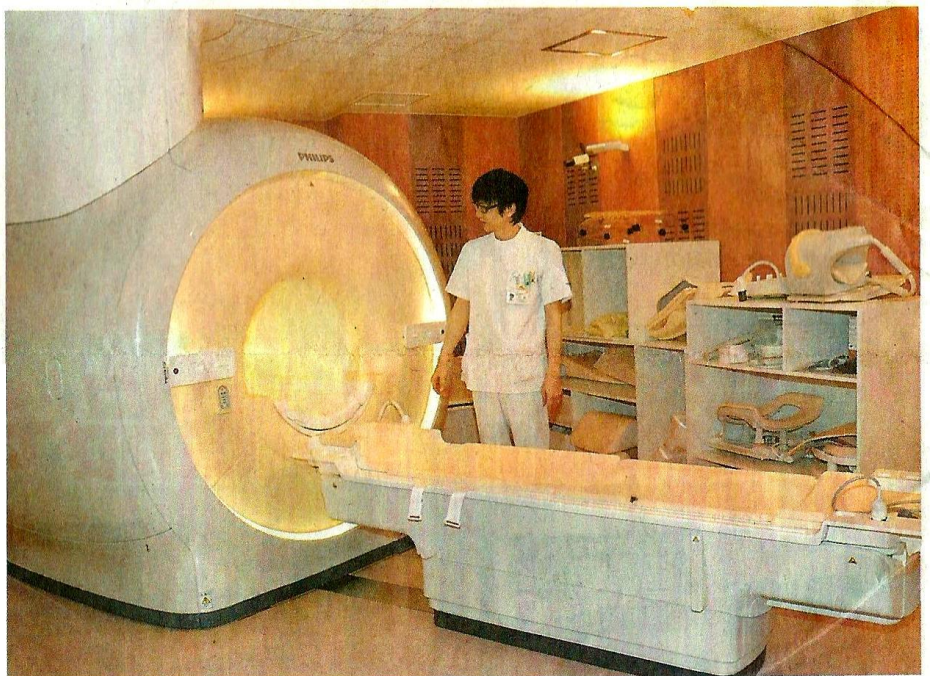
テスラは磁場の強さを意味し、製鉄病院には1・5テスラのMRIが1台ある。検査は年間約4千件で、

2週間待つ場合もあったことから、2台体制にして患者の利便性を向上させる。新型はフィリップス社製の

微細な血管や膝の軟骨の変形も鮮明に撮影できる。神経繊維の経路も画像化でき、手術にも役立つという。

製鉄病院にはNPO法人「日本磁気共鳴専門技術者認定機構」（京都市）に認定され、画像の解読や操作技術の優れた技師がいる。

林征志脳神経外科長は「最新鋭の画像診断装置



の導入で、さらに精度の高い治療を行える」と話している。（相沢宏）

製鉄記念室蘭病院の3テスラMRI